

研究課題名	血液-脳脊髄液関門におけるカフェインの動態 -中枢神経刺激薬との関係性についての検討-
研究の意義・目的	近年、特に若年者におけるエナジードリンクの多量摂取が問題視されています。エナジードリンクの主成分であるカフェインの中毒死例も増加傾向にあります。一方、若年者における覚醒剤等の中枢神経刺激薬の使用も社会的問題となっており、それら両薬物の使用症例も認められます。覚醒剤などの薬物乱用者では、過去にエナジードリンクを摂取していた割合が高いとの報告もあり、エナジードリンクと薬物乱用の相互関係が指摘されているものの、そのメカニズムについて詳細な報告はありません。カフェインは、血液脳関門 (Blood-brain barrier: BBB) と血液脳脊髄液関門 (Blood-cerebrospinal fluid barrier: BCSFB) を通過して、中枢神経に取り込まれますが、BCSFBにおける動態について詳細は不明です。そこで、本研究の目的は、BCSFBにおけるカフェインの動態と、同部位における薬物がカフェインの動態に与える影響について検討することにあります。BCSFBにおけるカフェインの動態、また薬物乱用との関連性を明らかにすることで、カフェインの依存的摂取のメカニズムやエナジードリンクの摂取が薬物乱用を誘発するメカニズム解明の一助になると考えます。
研究を行う期間	倫理委員会承認後～2024年3月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2013年以降に大阪市立大学法医学教室で実施された法医解剖症例が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	死因診断・病態診断目的で使用された下記試料を使用させていただきます。 試料：【体液，組織】 情報等：【検出薬物，生化学検査結果，細菌培養・ウイルス検査結果】
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学法医学教室のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学法医学教室のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科法医学教室 研究責任者 石川 隆紀
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、法医診断に関する不利益等を受けることは全くありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 法医学教室 (担当者氏名) 石川 隆紀 電話番号：06-6645-3767 メールアドレス：legalmed@med.osaka-cu.ac.jp